

青葉通駅前エリアの将来ビジョン 骨子案(たたき)

※この骨子案で確定ではございません。議論をするうえでの敲き台です。
※協議会委員の皆様、関係機関とのこれまでのご意見は反映している所存ですが、
骨子案に対するご意見は今後反映してまいります。



青葉通駅前エリアのあり方検討協議会

令和 年 月 日

構成

○ 歴史、特長、期待される役割など

- ・ 対象エリア、エリアの位置づけ
- ・ エリアの歴史
- ・ 協議会のあゆみ
- ・ エリア周辺を含めた特長
- ・ 仙台の顔として今後期待される役割

○ エリアへの想い

- ・ エリアへの想い、3つの目指すこと、実現したいシーン例

○ 今後に向けて

- ・ エリアへの想い・3つの目指すことの実現に向けて共有したい価値観

○ さいごに

○ 巻末資料

- ・ 青葉通仙台駅前エリア社会実験 MOVEMOVE 効果検証データ(一部)
- ・ 青葉通駅前エリアのあり方検討協議会 委員名簿

○ 歴史、特長、期待される役割など

- ・ 対象エリア、エリアの位置づけ

・東北の発展を導く「仙台の顔」

対象エリア、エリアの位置づけ

- ・「仙台の顔」として、仙台を印象づける『青葉通駅前エリア』が対象
- ・ 公共空間(青葉通)だけでなく、民間事業者で実施する沿道開発の低層部もエリアに含む

- ・東北の玄関口である仙台駅に隣接
- ・仙台に初めて訪れる方、日常の中で何度も訪れている方、誰もがペDESTリアンデッキから目にする「仙台の顔」
- ・仙台の顔として印象を与えるためには、訪れた方がアイレベルで捉える範囲が特に重要
- ・公共空間(青葉通)だけでなく、沿道開発の低層部を含めた範囲を対象エリア
- ・対象エリア周辺の特長も踏まえる
- ・取組み効果はこのエリアだけでなく、周辺の様々なエリアへの波及させることを意識する

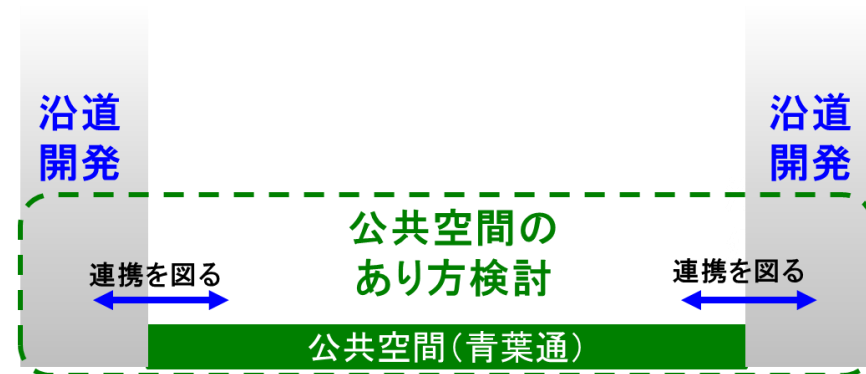
※周辺の定義は内容に応じて異なる

<イメージ> エリアを示した位置図を掲載

<平面図>



<断面図>



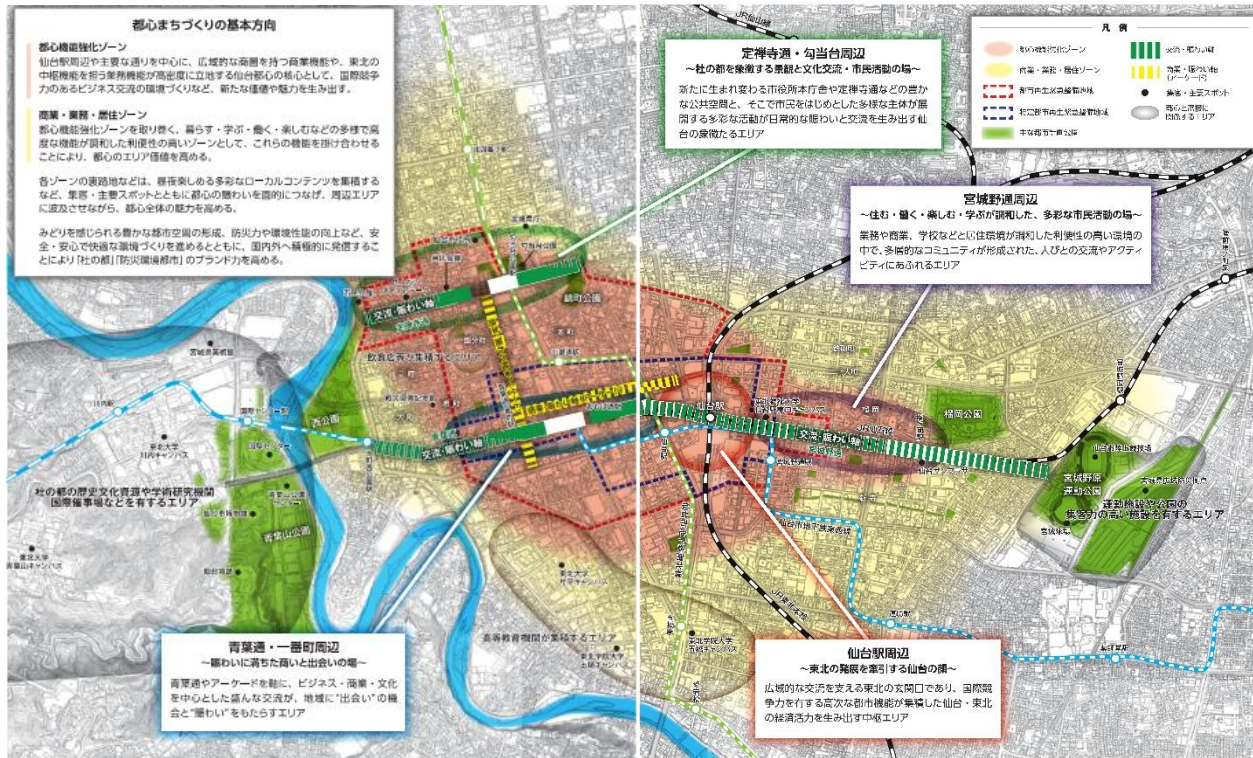
<イメージ> 広域図を掲載

<仙台市のまちづくりの理念>

- ・連綿と受け継がれてきた「杜の都」のまちづくりを基盤として、世界からも選ばれるまちを目指し、まちづくりの理念に「挑戦を続ける、新たな杜の都へ～“The Greenest City”SENDAI～」を掲げている
- ・副題の「“The Greenest City”SENDAI」は、「杜の都」と親和性のある「Green」という言葉に、様々な意味を込めるとともに、最上級を表す「est」を付すことで、世界を見据えて常に高みを目指すまちづくりの方向性を示している

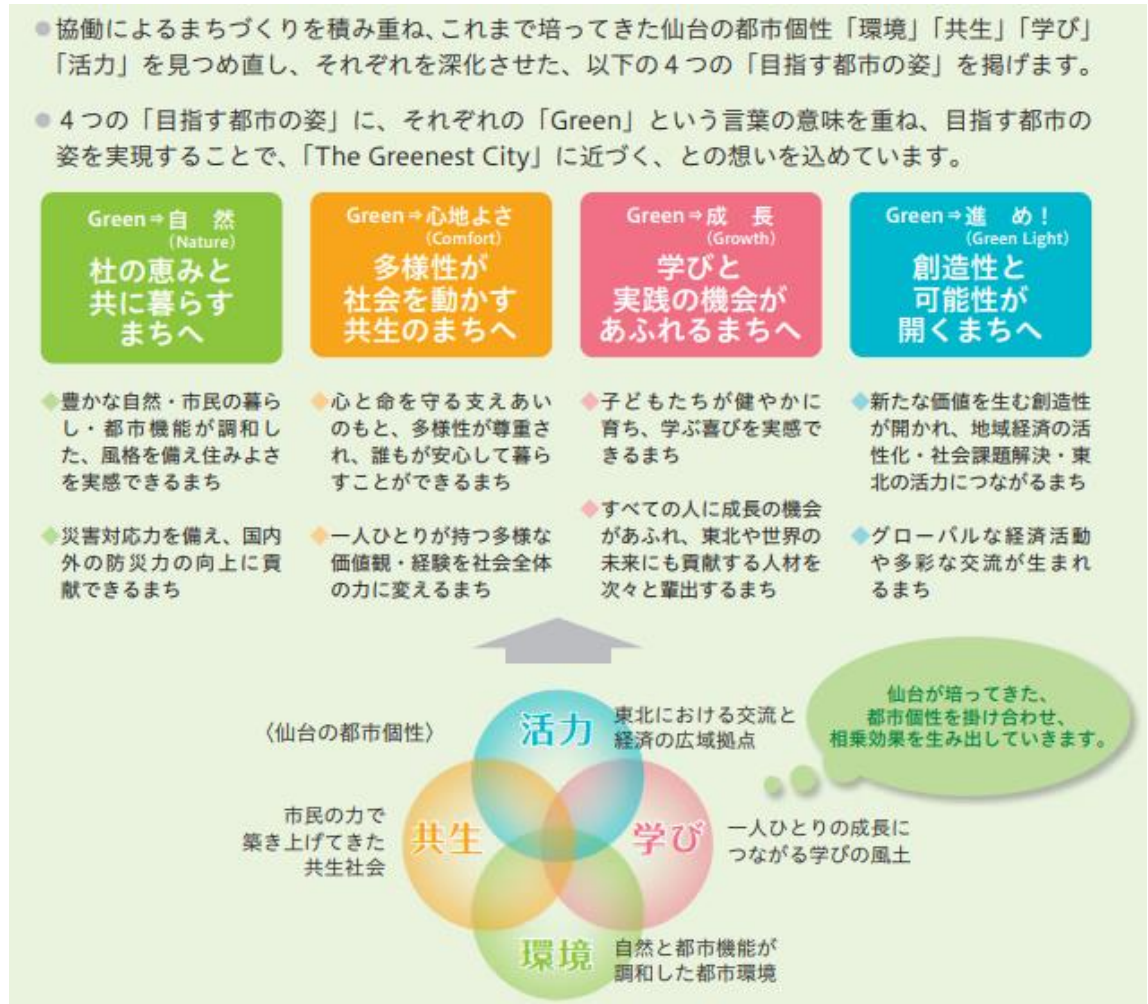
<広域図>

- ・青葉通駅前エリアは、広域的な交流を支える東北の玄関口と経済力を生み出す中枢エリア
- ・伊達政宗公が青葉山に仙台城を築いたことから「仙台のはじまり」とも言える青葉山エリアと青葉通を通して繋がっている



<参考>

“The Greenest City”SENDAI の目指す4つのGreen



エリアの歴史

<戦後>

- ・1946年から戦災復興事業の目玉として、仙台駅から仙台城址をつなぐ仙台市の誇りともする道路とされ、戦災で焼失した城下町の屋敷跡に整備
- ・仙台駅前から東二番丁通までは幅員 50mにて整備
- ・青葉通という名称は河北新報社での市民公募により選定

1950年頃の青葉通の風景写真を掲載予定

<1964年>

- ・南側に東北地方初と洋式ホテルとして、皇族等も滞在し、格式高く、風格がある仙台ホテル、北側に家族で訪れる方も多かった屋上遊園地のある丸光百貨店
- ・風格と賑わいがあり、東北の玄関口としてこの時代から多様な属性が関われるエリアとなる

<1965年>

- ・歩道部分にケヤキ植栽



➤沿道開発の機運が高まる

<2017年>

- ・さくらの百貨店(旧丸光百貨店)閉店

<2009年>

- ・仙台ホテル閉館
(後に都市型商業施設EDEN開業)

1964年の青葉通の風景写真を掲載予定

<2022年>

- ・社会実験を実施
- ・仙台の強みである若い世代を中心とした多様な主体が、統一したブランディングに基づくデザイン、空間、交流体験を重視したコンテンツを実施。新しい賑わいと魅力を生み出すポテンシャルを確認

?

<20XX年>

- ・沿道開発と一体となった整備、運用
- ・これまでに築いてきた誇り、歴史を踏まえ仙台の顔として新たな賑わいの創出、回遊の拠点となることが期待される

・協議会のあゆみ

・官と民による新たな挑戦へのはじまり

協議会のあゆみ

- ・ 令和3年6月に官民連携による「青葉通駅前エリアのあり方検討協議会」を設立
- ・ 協議会員は、学識経験者、商工関係者、沿道地権者、交通事業者、行政等で構成
- ・ 多様な主体がエリア価値向上のために挑戦する際の道標となる「将来ビジョン」の策定を目指し、沿道開発との連携も含めたあり方について議論
- ・ 将来のエリアづくりに向けて3つの視点を掲げる
- ・ 社会実験、市民参画イベントを通して、市民やこのエリアを訪れる方の意見を収集

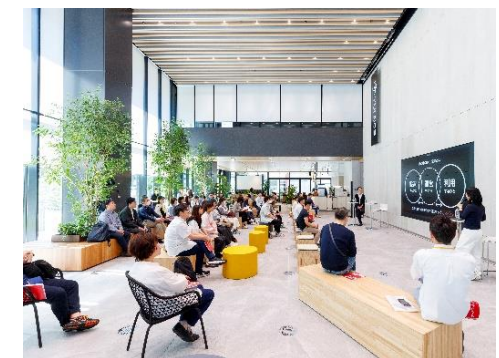
<イメージ> 経過がわかる年表等を掲載



<イメージ> 社会実験の写真を掲載



<イメージ> 市民参画イベントの写真を掲載



・エリア周辺を含めた特長

・市民だけでなく、多くの市外来訪者が行き交う

・風格あるケヤキ並木

エリア周辺を含めた特長

1 市民だけでなく、多くの市外来訪者が行き交うこと

- ① 東北の玄関口である仙台駅と各地を結ぶ交通結節点
- ② 仙台・東北の経済力を生み出す多様な都市機能

2 ペDESTリアンデッキから眺望する風格あるケヤキ並木、青葉山エリアにつながる青葉通

1 市民だけでなく、多くの市外来訪者が行き交うこと

① 東北の玄関口である仙台駅と各地を結ぶ交通結節点

- ・ 東北の玄関口である仙台駅と各地を結ぶ交通結節点であり、JR、地下鉄、路線バス・高速バス、タクシー等の多様な交通手段が集積

今後、交通結節点を表す図を入れる

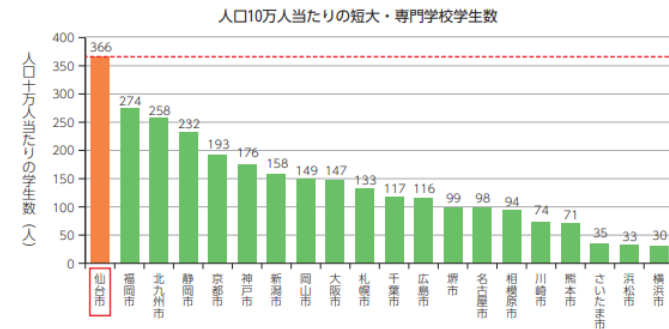
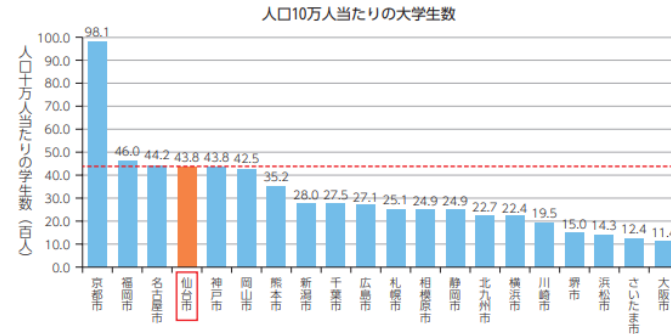
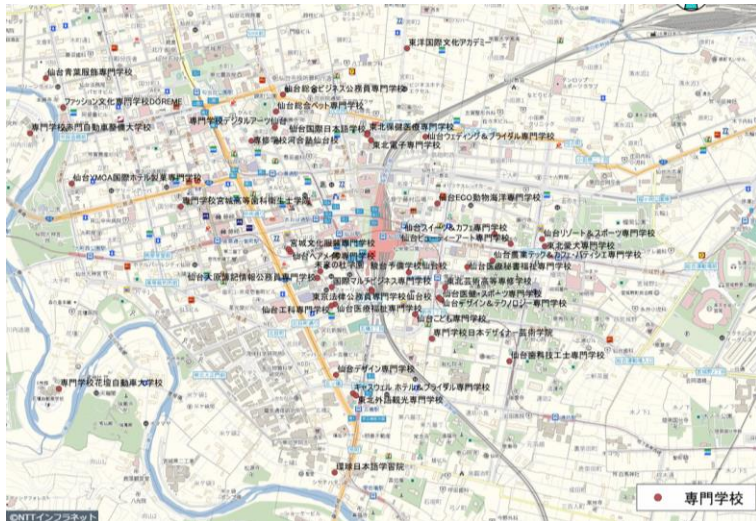
② 仙台・東北の経済力を生み出す多様な都市機能

- ・ 周辺には大規模商業施設、商店街、企業が立地するなど、仙台・東北の経済力を生み出す多様な都市機能が集積
- ・ 仙台は人口当たりの学生数が多いことから「学都仙台」としての特長を有する。
エリア周辺には多数の専門学校があり、交通結節点として市内、県内大学への通学の経路であることから多くの学生が集まる環境

<今後につながる近年の動向>

- ・ 令和元年(2019年)からは仙台市による都心再構築プロジェクトにより、高機能オフィスの整備など都心部の機能強化を促進
- ・ 令和5年(2023年)には東北学院大学が五橋にキャンパスを移転。エリア周辺により多くの学生が集まる環境

今後、大型商業施設、企業立地、大学立地、都心再構築の実例として
アーバンネット仙台中央ビル、南町通ビル等を入れた図挿入



➤①、②により、市民だけでなく、多くの市外来訪者が行き交う特長を有する

特に通勤通学の経路、仙台駅前の大規模商業施設の集客等により、都心他エリアと比較して若い世代が多い

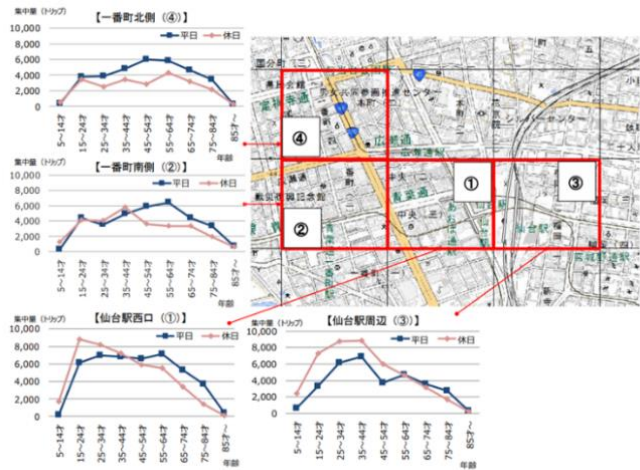
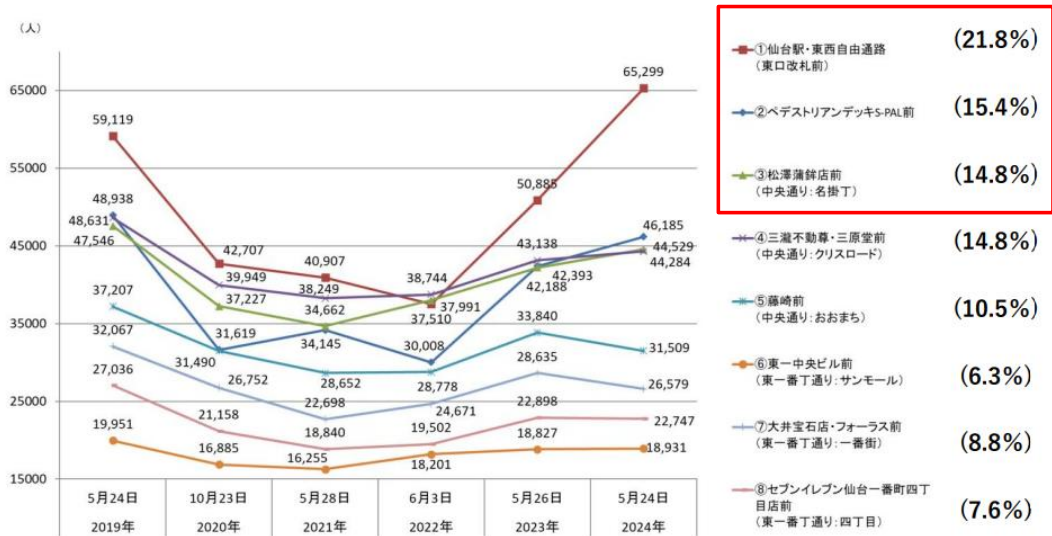


図 3-365 都心着トリップのメッシュ別年齢階層構成

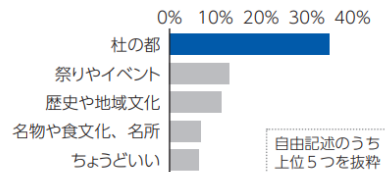
2 ペDESTリアンデッキから眺望する風格あるケヤキ並木、青葉山エリアにつながる青葉通

- ・ケヤキ並木は昭和 50 年に仙台市の保存樹林に指定され、杜の都にふさわしい風格ある都市景観、居心地の良い空間を構成する1つの要素
- ・「杜の都」は市民にとって未来に残していきたい仙台の魅力であり誇れること
- ・歴史、文化、学術、自然などの資源が集積し、仙台のはじまりの地とも言える青葉山エリアと青葉通を通して繋がっていること

<イメージ> 資料、ケヤキ並木の写真を掲載



未来に残していきたい仙台の魅力



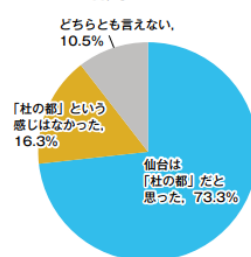
出典：仙台市「施策目標に関する市民意識調査」(平成30年度)

- 市民意識調査では、未来に残していきたい仙台の魅力として「杜の都」に関連する自由記述が最も多く、回答件数の約3割を占めています。
- 「杜の都」を未来により良い形で残していくまちづくりを進める必要があります。

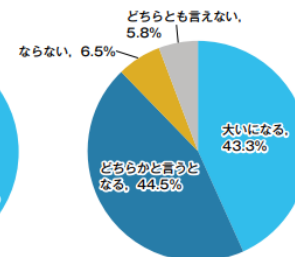
問. あなたが思う「杜の都」を代表するみどりは何か（あてはまるもの3つまでに○, n=400）。

1位	青葉山	47.5%	2位	青葉山公園(仙台城跡)	29.8%	3位	青葉通	23.5%
4位	定禅寺通	22.5%	5位	広瀬川	20.0%	※上位5項目のみ掲載		

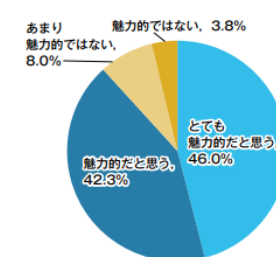
問. 本市居住時に「杜の都」というイメージを持つことができたか（あてはまるもの1つに○, n=400）。



問. 「住みたいまちの条件」として、身近なみどりの充実が必要な条件になるか（あてはまるもの1つに○, n=400）。



問. 本市のみどりは魅力的かどうか（あてはまるもの1つに○, n=400）。



- ・ 仙台の顔として今後期待される役割

- ・ **東北の玄関口として多くの人を惹きつける**

- ・ **回遊の起点となる**

仙台の顔として今後期待される役割

- ① 東北の玄関口として多くの人を惹きつける役割
- ② 他エリアへの回遊の起点となる役割

① 東北の玄関口として多くの人を惹きつける役割

<現状>

- ・旧仙台ホテル、旧さくら野百貨店等があった時代を知らない若い世代を中心に仙台の顔として認識されていない
- ・沿道開発の機運はあるが、仙台の顔として人の活動、交流、滞在など顔としての表情が見られず、多くの人を惹きつける状態でない

<特長>

- ・東北の玄関口であり、仙台・東北の経済力を生み出す多様な都市機能が集積しているため、市民だけでなく、多くの市外来訪者が行き交うこと

<社会実験 MOVEMOVE>

- ・様々な人が心地よく感じる活動、交流、滞在(居心地の良い賑わい)をつくることで、来訪者に楽しい、嬉しい、おどろき等といった好印象を与えた
- ・旧仙台ホテル、旧さくら野百貨店等があった時代を知らない若い世代はこのエリアに対するイメージは薄いですが、若い世代にも好印象を与えた

<現状・特長・社会実験を踏まえた役割>

- ・誰もが「仙台の顔」と実感できるよう居心地の良い賑わいを生み出すことで好印象を与え、東北の玄関口として多くの人を惹きつける役割

② 他エリアへの回遊の起点となる役割

<現状>

- ・現状の仙台駅周辺での回遊は、仙台駅西口ペDESTリアンデッキと東西自由通路がメイン
- ・仙台駅前を起点に歩く人の移動距離の50%は500m程度(仙台駅から東二番丁通までの距離に相当)
- ・勾当台・定禅寺通など、都心各エリアで特色を生かしたまちづくりが進められていること

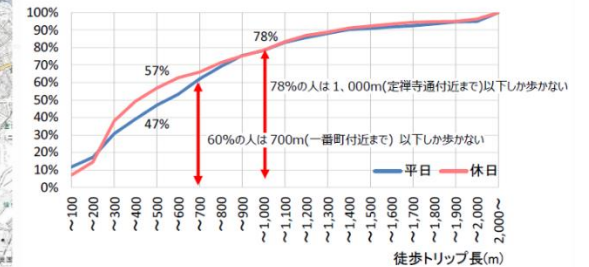


図 3-379 仙台駅前的小ゾーンからの徒歩トリップ長累積密度分布

<特長>

- ・東北の玄関口であり、仙台・東北の経済力を生み出す多様な都市機能が集積しているため、市民だけでなく、多くの市外来訪者が行き交うこと
- ・歴史、文化、学術、自然などの資源が集積し、仙台のはじまりの地とも言える青葉山エリアと青葉通を通して繋がっていること

<社会実験 MOVEMOVE>

- ・歩行者交通量の増加、歩行者の通行ルートの変化につながったことから、他エリアに関する情報発信、ベンチ等により寛いで滞在できる環境を創出することにより、回遊の起点となるポテンシャルを見出した

<現状・特長・社会実験を踏まえた役割>

- ・情報発信、寛いで滞在できる環境を提供することにより、エリアに訪れる多くの来訪者を他エリアに広げていく回遊の起点となる役割

○ エリアへの想い

- ・ エリアへの想い、3つの目指すこと、実現したいシーン例

心が動く「まちあわせ場所」をつくり、
これぞ「仙台の顔」と
世界に誇れる表情を育てる

心が動く「まちあわせ場所」をつくり、 これぞ「仙台の顔」と世界に誇れる表情を育てる

< 心が動く「まちあわせ場所」をつくり の意図・想い >

エリアを訪れる人に“また来たい、誰かと想いを共有したい”など

「仙台の顔」として好印象を与え、さらに多くの人を惹きつけるとともに、

ここを起点に他エリア(都心・東北)を巡り仙台、東北の“ひと、こと、ものに触れる(まちに会う)”

回遊の起点をつくっていきたいこと

< 表情を育てる の意図・想い >

様々な人が関われることで

新たなひと、こと、ものにより生み出し、

絶えず人を惹きつけることで訪れる人、関わる人が増え、

新たなイノベーションや文化が生まれる状態が続いていくこと

3つの目指すこと

○ 心が動く「まちあわせ場所」を継続して実現できる 世界に誇れる“空間づくり、仕組みづくり”

○ 公共空間だけでなく “沿道開発と一体的に行い、互いに相乗効果を生み出すこと”

○ 来たことがある人も・ない人も訪れたい、関わりたい、応援したくなる
ブランディング、マーケティングに基づく “情報発信”

※空間づくり…空間デザイン・機能面・コンテンツの検討、実施

※仕組みづくり…人材の発掘、育成による持続可能な管理運営体制の構築、プレイヤーの創出



これぞ「仙台の顔」と世界に誇れる表情を育てる

実現したいシーン例

ビジョンとして公表する際は、このページは除きます。シーンの説明用

① 大きく4つの状況に分けてシーンを検討


	市民	来訪者 (市外、県外)
動的		
静的		

・属性 市民、市外からの来訪者(仕事、観光、海外から等)

・活用 動的な活動、静的な活動*

2

「居心地の良さ」には
「静的な居心地」と「動的な居心地」がある



静的な居心地とは？

- ・受動的、安らぎ、間接交流、合流、くつろげる、休憩
- ・イベント・アクティビティに参加しないが、同じ空間にいることは楽しんでいる
- ・拍手や笑いで参加しているなど、緩やかに繋がっている満足感
- ・人の目が届いている安心感がある 例) 警備員がいて管理されている
- ・個々の楽しさ(携帯を見ながら居心地良く過ごしているなど)
- ・多様な属性の人が同じ空間にいる

動的な居心地とは？

- ・積極的、直接交流、人を動かす仕掛け、驚き、アクティブな楽しさ、雰囲気がある
- ・会話をする、何かを一緒にするなど、人と人との直接的なコミュニケーション量が多い

② ①を踏まえ、下記3つを整理

- ・人が
- ・どのような活動・交流・滞在等により
- ・どんな感情を持つか、発見があるか

あくまでも一例 イラストは第1回、第2回市民参画イベントで寄せられた意見をイラスト化したもの(このイラストを必ず使用する訳ではありません)

○市民

見ず知らずの人とも交流できる楽しさ。新たな価値観を知れた

○県外来訪者

地元の方と交流できる楽しさ。仙台・東北の生活を知れることで、関心を持た



○オフィスワーカー(市内在住)

- ・仕事の際に、同僚と気軽に意見交換でき、悩みごとスッキリ。新たなアイデアも生まれた
- ・仕事後はリスキングのセミナーに参加。充足感、やる気が湧いてきた



○オフィスワーカー(東京在住)

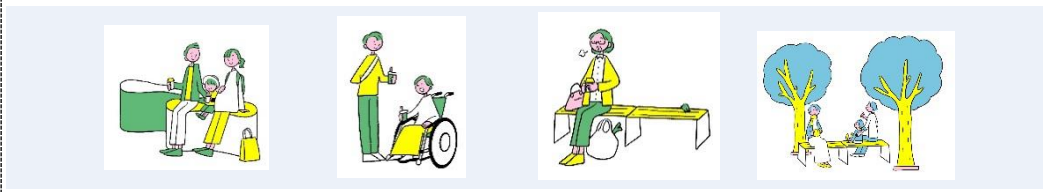
- ・今日は東京から出張。アポまで時間あるからプレゼン資料を確認し、気持ちを整えよう
- ・仕事が早く終わったから、新幹線までの時間で行ける見どころを確認しよう。楽しみ

○市民、市外・県外来訪者

・コンテンツに直接参加しないけど、雰囲気は感じつつ、居ても良い心地よさ

・買い物の間に休憩。隣接するカフェでドリンクとテイクアウト。寛げたから今度はアーケード、一番町の方に行ってみよう

・ケヤキ並木の光景により、杜の都として誇りを感じる



○来訪者(国内外の観光客)

・仙台・東北の文化、魅力を体感でき、満足。次はさらに体感したいから現地にも足を運ぼう

・仙台・東北への期待感とともに「行ってらっしゃい」と快く送り出さしてもらえ、「お帰りなさい」と受け入れてもらえ余韻にも浸れた。何度も来たい

○ 今後に向けて

- ・ 今後に向けて(エリアへの想い・3つの目指すことの実現に向けて共有したい価値観)

・**グラデーション・ポジティブ**

グラデーション・ポジティブ

グラデーション

「仙台の顔」は歴史、人、ハード、ソフトといった要素の変化や違いによりつくられていること

+

ポジティブ

多様な主体が受け入れ、違いや変化を、より一層前向きに受け入れ、より魅力的で誇れる、憧れる「仙台の顔」を目指してアップデートすること

↓

グラデーション・ポジティブ

エリアに関与する多様な主体と価値観を共有し、
エリアをより良くするためにグラデーションの要素に柔軟に対応し、ポジティブに前進する

グラデーション

「仙台の顔」は、歴史、人、ハード、ソフトといった要素の変化や違いによりつくられていること

<3つのグラデーション>

1 歴史によるグラデーション

時代の移り変わりとともに変化してきた沿道施設、交通面、杜の都として誇れるまで成長したケヤキ並木などの違いや変化がある

2 ひとによるグラデーション

東北の玄関口として、多くの人が行き交うエリアであり、ひとのニーズや行動、過ごし方などは曜日や時間帯に応じて違いや変化がある

3 ハード、ソフトが織りなすグラデーション

ハード、ソフトどちらかだけでなく、両方が織りなすことで心が動くまちあわせ場所をつくれること



心を動かすグラデーションへ

3つが融合するグラデーションにより、仙台の顔として人に好印象を与え、感情を生むこと

歴史によるグラデーション

昭和（戦災復興→高度経済成長）→平成→令和→

丸光→ビブレ→さくら野 交通面の变化
仙台ホテル→E D E N ケヤキ並木の成長

ひとによるグラデーション（属性）

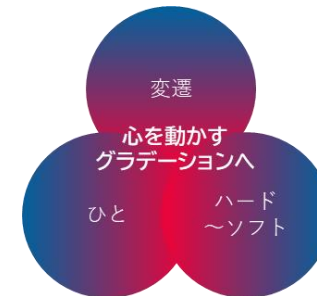
こども～学生～社会人～高齢者
仙台に住む人～市外・海外から訪れる人

ひとによるグラデーション（行動、過ごし方）

落ち着き～活発

ハード、ソフトが織りなすグラデーション

ハード（沿道開発・ケヤキ並木・交通）
～ソフト（ひと・しくみ）



ポジティブ

多様な主体が溶け込み、違いや変化を、より一層前向きに受け入れ、
より魅力的で誇れる、憧れる「仙台の顔」を目指してアップデートすること

<3つのポジティブ>

1 仙台に住む私たちのポジティブ

- ・ 戦災を乗り越え、違いや変化を受け入れ取組んできた姿勢、寛容さを踏まえ、未来に向かうこと
- ・ 仙台市のまちづくり理念「挑戦を続ける、新たな杜の都へ～“The Greenest City” SENDAI～」を踏まえ、世界を見据えてさらに高みを目指すこと

2 市外から訪れる人たちのポジティブ

- ・ エリアの特長を積極的に活用し、仙台・東北でも楽しめる、活躍できる、挑戦できる1歩目・ステージになること

3 まちのポジティブ

- ・ 仙台に住む私たち、市外から訪れる人たちが互いに自然と溶け込み、
より一層違いや変化を前向きに受け入れ、楽しむ、活躍、挑戦することで、より魅力的で誇れる、憧れる「仙台の顔」を目指してアップデートすること

さいごに

<主な内容> これからの青葉通駅前エリアへの期待、将来ビジョンについての想い

今後、全体内容が固まり次第、執筆者を含めて検討

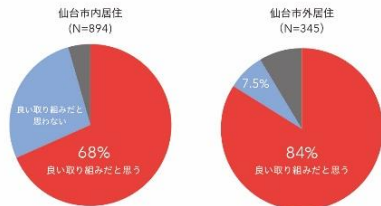
<イメージ> 社会実験の効果検証から得られたことを掲載

MOVE MOVE に対する評価は？

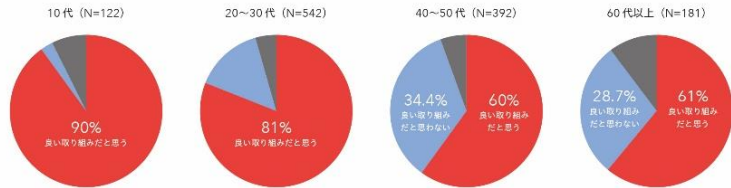
実験に対する評価をアンケート調査しました。回答した人の5割以上は仙台駅前によく来訪している若い世代(10代~30代)。その8割以上が「良い取り組みだと思う」と回答しました。年齢が上がるとその割合が下がり、40代以上は6割となっています。また、市内の人は約6割、市外の人は約8割が評価しています。

■ 良い取り組みだと思う ■ 良い取り組みだと思わない ■ どちらでもない

(居住地ごとの社会実験への印象)



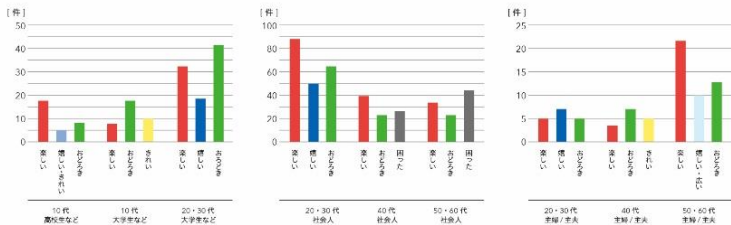
(年代ごとの社会実験への印象)



MOVE MOVE の第一印象は？

視点①「仙台の顔としてのエリア」を踏まえ、実験来訪時の第一印象をアンケート調査しました。若い世代をはじめ幅広い世代の人が「楽しい・嬉しい・おどろき」といった、通常のエリアからの変化や交流できたことに対する印象を挙げています。一方、40代以上の社会人は「困った」といった交通混雑に対する印象を挙げています。

(来訪時の第一印象 (上位3つ))



■ 楽しい ■ 嬉しい ■ 美しい ■ 静しい ■ 広い ■ きれい ■ 暑い ■ 寒い ■ 困った

※10代(学生など)には社会福祉生、専門学校生が含まれます。
※20代(学生など)には高校生が含まれます。
※「社会人」には会社員、公務員、自営業などが含まれます。

まとめ! 意見交換会を通して見えたこと

1 MOVE MOVE に訪れた、「子ども・学生・社会人・主婦/主夫」がこのエリアに対し、それぞれの「居心地の良さにぎわい」を求めている



2 「居心地の良さ」には「静的な居心地」と「動的な居心地」がある



静的な居心地とは？

- ・受動的、安らぎ、間接交流、会話、くつろげる、休憩
- ・イベント・アクティビティに参加しないが、同じ空間にいることは楽しんでいる
- ・拍手や笑いで参加しているなど、緩やかに繋がっている満足感
- ・目の届いている安心感がある 例) 警備員がいて管理されている
- ・個々の楽しさ(携帯を見ながら居心地良く過ごしているなど)
- ・多様な属性の人が同じ空間にいる

動的な居心地とは？

- ・積極的、直接交流、人を動かす仕掛け、驚き、アクティブな楽しさ、雰囲気がある
- ・会話を、何かを一緒にするなど、人と人の直接的なコミュニケーション量が多い

居心地の悪さとは？

- ・空間に人が密集している時
- ・空間に余裕はあるが、心理的に居心地が悪い時 例) 親子連れが集中している時に、社会人一人など、自分とは異なる属性の人が集中している時
- ・声をかけられたくない時、人と関わりたくない時
- ・イベントやアクティビティを実施すると来訪者が増え、人口密度も増え、静的な居心地が損なわれる
- ⇒イベント・アクティビティを実施する時間帯、場所などへの配慮が必要

ハード面の居心地の良さは？

- ・目が届く広さである
- ・風通しがクリアされている 例) 石、動物のふんなどが無い
- ・空間の設えに安心感がある 例) ベンチ(心理的にちょうど良い距離感で設置)、目隠し(個々のテリトリーに踏み込みすぎない)
- ・公共交通機関、商業施設に隣接している

3 将来ビジョンづくりへ向けて

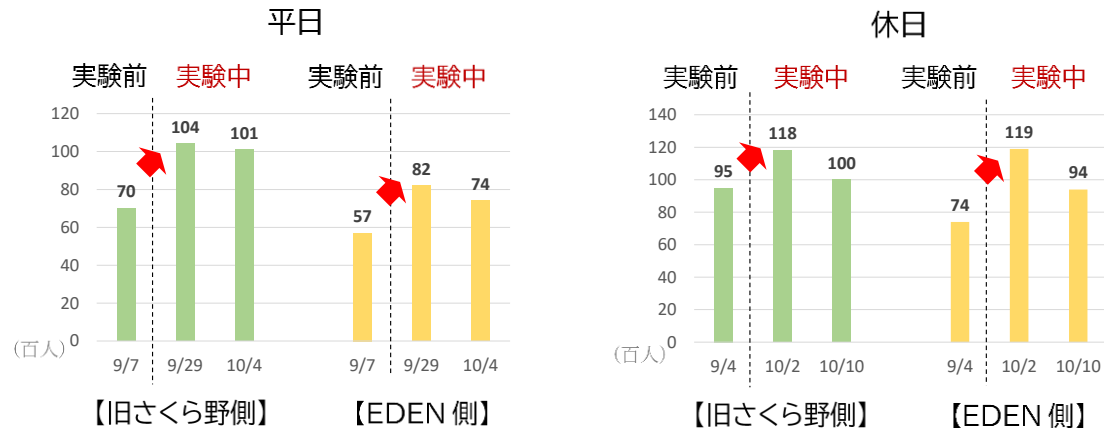
今回の意見交換会で見た「居心地の良さにぎわい」をエリア価値に必要な要素として、将来ビジョンの検討に取り入れていきたいと考えています。



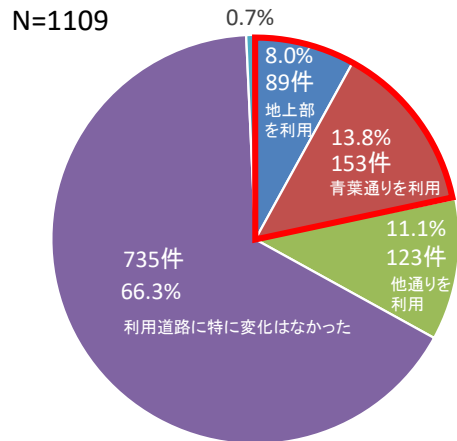
今後は、子育て層の視点や市外居住者の客観的な視点も取り入れながら、沿道開発と公共空間をどう連携していくかを含め、青葉通仙台駅前エリアの将来ビジョンを検討していきます。



■ 歩行者交通量の変化



■ 実験時の通行ルートの変化



- 日頃は地下道を通行しているが、今回は地上部(青葉通)を利用した
- 普段は他の通りを通行しているが、青葉通を利用した
- 普段は青葉通を通行しているが、他の通りを通行した
- 利用経路に特に変化はなかった
- その他

<ベンチ等寛いで滞在できる環境について>

(市民参画イベントでの市民意見)

- ・ 現状の青葉通駅前エリア、ペDESTリアンデッキ周辺には「お金を遣わなくても居られる場所」、「くつろげる場所」、「親子で楽しめる場所」、「ゆったり待ち合わせできる場所」が少ない

(協議会での意見)

- ・ 現状の仙台駅前、ペDESTリアンデッキはゆったりできる場所がなく、もう少し溜まれる場所が必要ではないか。溜まれる空間で人が時間を使うことで、沿道や周辺の商売にも繋がると考える

<イメージ>現状を示す写真、資料等を掲載



(参考 社会実験時の沿道店舗への効果)

エリアの沿道店舗への効果は？

視点③「エリア価値向上のために挑戦するエリア」を踏まえ、実験中、青葉通仙台駅前エリアの沿道店舗にはどのような影響があったのか、沿道事業者店舗を対象にヒアリングを行い、3店舗から以下の声が聞かれました。

実験中は客層の変化により客数増加、売上も向上

平日・休日を問わず、若い世代と家族連れが増えました。また、実験前と比較し、客数は30%、売上は20~30%向上しました。交通混雑による客数の減少は見られませんでした。



利活用空間を設けることのメリット・デメリット

メリット

店舗前の雰囲気良くなり、人目に付きやすくなる。新たな客層を含めエリアに来訪者が増え、沿道店舗にとって売上増加のチャンスになる。



デメリット

イベントなどを仕掛けることでそちらに注目が集まってしまい、店舗が目立たなくなる懸念あり。

